

カルディオメタボリックとは

内分泌代謝内科 診療主任部長 山田 祐也 Yuya Yamada

今、健康の大敵は2つあります。1つは悪性腫瘍で、もう1つは動脈硬化です。このうち動脈硬化という巨大な敵に対して予防から治療まで一貫してすべて対応しようという考え方が「カルディオメタボリック」です。

動脈硬化とは様々な原因で血管の壁が硬くなり血管内腔が細くなったり（狭窄）、詰まったり（閉塞）して栄養源である血流が届かなくなることで起こる臓器障害で、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞、下肢の血流障害などの病気がして表れます。生活が近代化されて歩かなくなったことや油っこくておいしい物を食べ過ぎてしまう飽食の時代になったことなど、生活習慣の変化が動脈硬化を進行させる大きな原因と考えられています。薬になった生活の代償として内臓脂肪が蓄積し、糖尿病、高脂血症、高血圧などの動脈硬化の危険因子がある個人に積み重なった状態をメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）と呼びます。これら動脈硬化の危険状態の対策に

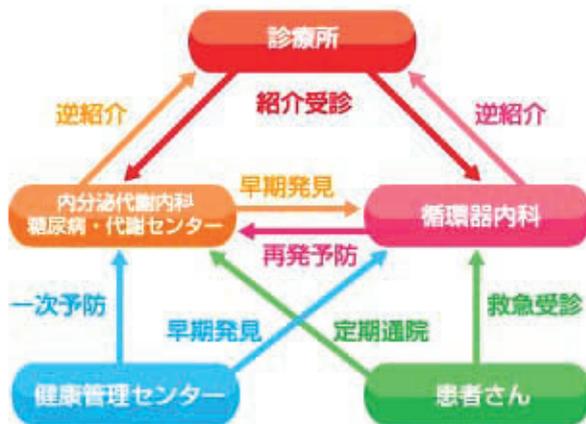
真剣に取り組みなくてはなりません。

カルディオとは心臓

カルディオメタボリックという単語は耳慣れない言葉です。カルディオとは心臓のことです。つまり狭心症や心筋梗塞を意味しています。動脈硬化の最終的な結果である心疾患を中心にして、原因となる代謝異常も含めてすべて管理するという意味がこめられた言葉です。

たとえば心筋梗塞で救急受診して入院し、カテーテル治療などを受けて改善したとしても、これで病気が治ったと考えて元の生活に戻ったらどうなるでしょうか？ 動脈硬化がさらに進行して心筋梗塞が再発する危険性があります。たとえば糖尿病や高血圧で内服治療を続けているとしても、検査データが安定していても体重の減量ができていかなかったとし

カルディオメタボリック



カルディオメタボリック  
ユニットの必要性

住友病院では入口側の内分

たらどうなるのでしょうか？ 気がつかないうちにひそかに動脈硬化が進行している可能性があり、これらの問題を解決するためには、動脈硬化の入口側から見ると生活習慣病的な確な管理と動脈硬化病の早期発見・早期治療が重要であり、出口側から見ると緊急対応だけではなく再発予防のための危険因子の管理が重要になります。

内分泌内科・健康管理センター、出口側の循環器内科・心臓血管外科などの科がすべて得意種目として揃っています。これらの住友病院の特性を活かして心疾患の予防から、早期発見、救急治療、再発予防までトータルケアを目指そうという考えでカルディオメタボリックユニットを立ち上げました。各科が今までよりさらに密接に連携して取り組むことができますと考えています。病状が安定すれば図のように診療所との病診連携に移行することももちろん可能です。

